

令和2年度 第1回学校運営協議会実施報告

実施日時：令和2年8月21日（金） 15:40～16:55

実施場所：本校会議室

学校協議会

委員 出席者（五十音順、敬称略）

足立委員、長田委員、塩見委員、田中委員、中山委員

事務局出席者

明石（校長）、西村（教頭）、田澤（事務長）、川村（首席）、佐藤（首席）、隼田、吉田、
中島、三森、諸井、奥村、鈴木、松原（分掌長・学年主任） 合計13名

次第：

1. 学校経営計画に係る事項について
2. 令和3年度使用教科書選定について
3. 各学年分掌から進捗状況報告について
4. その他、校長が必要と認める事項について

◎委員 ○校長 ●事務局

1. 学校経営計画に係る事項について

- 「1のめざす学校像」に関して、しっかりと生徒に向き合い、生徒の信頼に基づいた中で教育活動を行うことが本校の一番の柱である。
- 「2中期的目標」の「1の進路実現をはかる学力の育成」に関して、(2)の進路先に対する満足度アンケートは、毎年肯定的な回答 80%以上としていたが、より多くの生徒に満足して卒業してもらいたいので90%以上とした。
- (3)は「高大連携により大学での学びの先行実施」の文言を追記。
- 学校経営推進事業に応募し、教育庁から支援校として認められた。
- この事業の一番の柱は、裏面「2豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成」の「(1)社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成」の(1)である。教育相談体制を再構築し、カウンセリングの視点を持って自己肯定感を育成していきたいと考えており、この部分は前年度と大きく変わっている。ユニバーサルデザインの授業等もあるが、本校は共生推進教室があるので全ての生徒が分かりやすい、見やすい、学びやすい、状況や環境を整備することを含めて(1)ウの項目を追加。
- (2)イの学校が安心できる居場所づくりは、SNS等の適切な使い方の指導について設定。ダメという指導だけでなく、どうしたら適切に使う事ができるのかを考えさせる。また、細かな生徒のニーズや思いを大切にするために、複数回の面談を行う事を設定。
- (3)部活動の活性化は、前回まで入部促進と意味で70%の入部率としていたが、今年は敢えて60%に抑えている。入部後の退部率を削減する目標を追加した。

- 「3 学校行事や校内組織の改革」は、「ア全教職員が各コースに所属し、後継者を育成することでコースの改善とともに継続と定着を図る」という項目を追加した。
- ◎ 「2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成」について、(1)社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成で、共生推進教室の取り組みに、生徒がコミュニケーション力を図るという記載があるが、具体的にはどういふことを行うのか。
- 日常的に会話のやりとりを重視する事はもちろんだが、授業においても、生徒同士の意見交換や発表の場を設定する。
- また、部活動や行事などで、意見を言ったり聞いたりする事ができるような体験を増やしていく。
- ◎ コミュニケーションの説明にあるカウンセリング手法を用いた対話の体制について、具体的にどういふことか。
- 何が大切なのか、生徒が話をできるように意識した言葉がけを教員たちが行うこと。また、積極的に SC や SSW に教員や生徒の支援に関わってもらう。その支援の方法を教員が学び、SC や SSW がいないときであっても、体制を継続できるように教員の力をつけていきたい。
- ◎ 専門コースの継続性について、具体的な方策はどんなことか。
- コースの授業担当者を固定せず、全ての教員がコースに所属し、授業ができるよう教材や指導方法を共有して引き継いでいく。

2. 令和3年度使用教科書選定について

- ◎ 公立の義務教育学校は、市町村教育委員会が教科書を選定・採択するが、府立高等学校は、学校が教科書を選定している。この場合、選定委員や調査委員など厳重に管理し、業者は誰が担当者かわからないようにしていると思うがどうか。
- 文科省の通知では、教科書の採択期間においても、教科書発行者が、採択関係者に対して教科書の宣伝活動を行う事を特段の問題とはしておらず、文科省から各教科書発行者に対して、過大な宣伝活動等を慎むように指導を行うとともに、教科書協会においても教科書発行者行動規範の遵守を求めている。

3. 各学年分掌から進捗状況報告について

- ◎ 部活動の加入率と退部率について。6割程度部活動に加入しているが、府内の他校の部活加入率と比較してどうか。また、退部率を5ポイント以内に抑えるとのことだが、現状、どのくらいの生徒が継続できていて、また、退部しているのかわかりたい。
- 府内の他校の状況については、学校間により大きな差があるときいている。
- その中で、本校は、開校当初の1期～3期は4割～5割程度の加入率であったが、現在は6割、1年生にいたっては7割近くある。部活動に関しては、生徒はもちろん、顧問や学年団が声掛けをしており、その結果、加入率が伸びてきている。
- 退部率については、2018年の1年加入率は67.3%、2019年の2年加入率は53.4%であ

り、1年間で13.9ポイント減少している。

- また、昨年度の1年加入率は66.8%、今年の2年加入率は61.9%と、4.9ポイントの減少で、退部している生徒は大分減少している。

◎ SNSとの付き合い方、危険性、使い方などを指導しているが、その研修では、具体的にどういったことをしているのか。

- SNSトレーニング研修では、例えば、未購入の商品の写真をSNSにアップして炎上し、友人らを巻き込んでしまい、人間関係に亀裂が出たトラブルなどを紹介。どうすれば問題を回避できたのかを考えさせている。

◎ 生徒からSNSの付き合い方に関して、意見を聞く機会はあるのか。あるのなら、どういった意見がよせられているのか。

- 研修中、生徒にアプリで意見を投稿させ、それを紹介し、それぞれの意見について考察していく。「自分たちが理解しないとトラブルは防げない、自分は防ぎたいと思っても、巻き込まれることもある。」など概ね好意的な内容である。この研修の一番のポイントはトラブル予防であり、研修を通して、生徒の意識を醸成させたい。

◎ オンライン授業について、zoomなどのリアルタイムの授業もやっているのか。

- いいえ。リアルタイムの授業は、各家庭の通信環境に大きく左右される。リアルタイム授業を取り入れている塾などでは、通信トラブルが多いときいている。

- トラブルが起きれば、授業の内容ではなく、通信環境の質問が殺到する可能性がある。

- YouTubeに動画を掲載し、それに付随した課題をGoogleクラスルームで配信するシステムを取り入れている。動画視聴後に課題を配信し、生徒は課題に回答し、自動で採点される。結果はすぐに生徒にフィードバックされる。疑問点などがあれば、Googleクラスルームで質問ができる。

◎ アサーショントレーニングを取り入れているが、具体的にはどんなことをやっているのか。

- 生徒が分かりやすいように、ドラえもんキャラクターを用いてトレーニングをしている。のびた型、ジャイアン型などのタイプがあり、例示した問いかけの返し方で、何型になるかをグループワークで検討し、どのような返し方をすればお互い気持ちよくコミュニケーションがとれるかを議論させている。

4. その他、校長が必要と認める事項について

◎ 最後に、授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項について、事務局から報告はあるか。

- 特にない。